

日本特別ニーズ教育学会第 32 回研究大会 第 1 次案内改訂版

皆様におかれましては、ご清祥のこととお喜び申し上げます。日本特別ニーズ教育学会第 32 回研究大会は、2019 年の第 25 回大会以来 6 年ぶりに、長崎にて開催いたします。今大会も第 31 回大会に引き続いて複数校での共同開催のかたちをとり、長崎大学と鎮西学院大学でつとめさせていただきます。プログラムや研究発表登録等の詳細は学会ウェブサイトにて随時お知らせいたします。

第 32 回研究大会のテーマを「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」といたしました。2024 年に日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）がノーベル平和賞を受賞し、核兵器廃絶と被爆の実相を伝える取り組みが国際的に高く評価されました。しかしながら、現在も世界各地で戦争や武力紛争が続き、とくに子どもたちの生命・生活・学びは深刻な影響を受けています。「戦争・核・平和」の問題は、第二次世界大戦後 81 年を経てもなお全く未解決の課題としてありつづけているなか、特別ニーズ教育は「戦争・核・平和」の課題にどのように向き合っていくべきなのかについて、開催地そして被爆地である長崎から、みなさまと考えていきたいと思っております。

多くのみなさまの参加と活発な討議を心よりお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

2026 年 6 月 12 日

日本特別ニーズ教育学会第 32 回研究大会（長崎大会）

大会準備委員長 鈴木保巳（長崎大学）

1. 日程

2026 年 10 月 17 日（土）・18 日（日）

※前日プログラム 10 月 16 日（金）

2. 会場

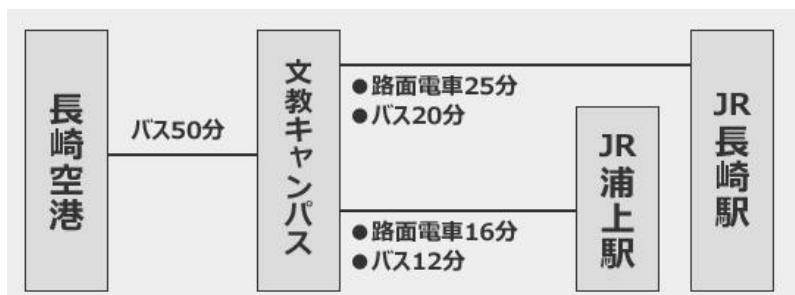
長崎大学教育学部

（長崎市文教町 1-14 長崎大学文教キャンパス）



【交通アクセス】

路面電車	「長崎駅前」または「浦上駅前」から「赤迫」行きに乗って「長崎大学」下車、徒歩 1 分
長崎バス	「長崎駅前」または「浦上駅前」から 1 番系統に乗って「長崎大学前」下車、徒歩 1 分
長崎空港	バス「長崎空港 4 番のりば」から長崎方面行き（昭和町・浦上経由）に乗って「長大東門前」下車、または長崎方面行き（住吉経由）に乗って「長崎大学前」下車、徒歩 1 分



*構内の駐車スペースには限りがございますので、公共交通機関をご利用ください。なお、自家用車は原則として300円の入構料金が必要となります。正門より入構し、守衛室にて所定の手続きを行ってください。タクシーで来学された方は入構料が免除となりますので、そのまま入構できます。

3. 運営体制

長崎大学・鎮西学院大学共同開催

大会準備委員長 : 鈴木保巳 (長崎大学)

大会副準備委員長 : 菅 達也 (鎮西学院大学)

事務局長 : 石川衣紀 (長崎大学)

大会開催有志 : 木永勝也 (長崎総合科学大学)

山口響 (長崎大学核兵器廃絶研究センター)

榎本由貴 (長崎大学)

後援 : 長崎県教育委員会、長崎県手をつなぐ育成会、長崎市手をつなぐ育成会

4. 大会テーマ:「戦争・核・平和」と特別ニーズ教育

現在も続くウクライナ戦争、ガザやイランの紛争・虐殺等に示されるように、「戦争・核・平和」問題への対応が喫緊の現代的課題になってきている。しかし、本学会ではこれまでに研究大会テーマとして「戦争・核・平和」問題を直接的に取り上げたことがない。それゆえに第32回研究大会では、子どもの「いのち・生活・学習・発達」を脅かす人類最大の危機でもある「戦争・核・平和」の問題に対して、特別ニーズ教育が取り組むべき課題を取り上げる。

5. タイムテーブル

日 時		内 容	
10月16日 (金)	—	【前日プログラム】 長崎市立城山小学校を会場に、世界最初の被爆児教育「城山小学校原爆学級」に関するミニ講義と同学級卒業生のかたの語りを企画中です。 ※内容は今後変更される可能性がございます。	
	10月17日 (土)	8:30	受付開始
	9:00	オープニング・セッション 学会代表理事挨拶、準備委員長挨拶	
	9:15～11:45	① 自由研究発表Ⅰ ② 若手チャレンジ研究会Ⅰ ③ 中学生・特別支援学校中学部生、高校生・特別支援学校高等部生招待企画 「Project for Next SNE Researcher」	【準備委員会企画】長崎地域特別支援教育分科会：①不登校への支援課題、②特別支援学校のキャリア教育、③大学等での障害学生支援、④読み書き障害の支援の実践、⑤特別支援学校での平和教育実践、⑥九州における教員不足問題と特別支援教育教員養成の課題
	12:00～12:40	【準備委員会特別企画】 被爆者家族の証言 中村尚子（東京被爆二世・三世の会、長崎原爆「家族・交流証言者」）	
	12:45～13:45	【基調講演】 「長崎・あの日を忘れない—原爆を体験した目や耳の不自由な人たちの証言—」平田勝政（長崎大学名誉教授・鎮西学院大学名誉教授）	
	14:00～16:30	【課題研究シンポジウム】 「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」 企画 研究委員会・高橋智（研究委員長・東海学院大学） 進行 高橋智（東海学院大学）・武井哲郎（立命館大学） 報告①高橋智（東海学院大学） 子どもの「戦争・核・平和」問題と特別ニーズ教育研究の視座—長田新（1951）『原爆の子—広島 の少年少女のうったえ—』を手掛かりに— 報告②岸博実（日本盲教育史研究会）視覚障害と戦争—盲教育史の視点から—	

		報告③石川衣紀（長崎大学）長崎にて原爆被爆した子どもの「いのち・生活・学習・発達」問題のリアリズム—長崎市立城山小学校「原爆学級」（1952～1958）の被爆児教育を中心に— 報告④菅達也（鎮西学院大学）障害・特別ニーズを有する子どもの平和教育実践—長崎県の特別支援学校を事例に— 指定討論 平田勝政（長崎大学名誉教授・鎮西学院大学名誉教授） 木永勝也（長崎総合科学大学）打診中	
	18:00～20:00	懇親会（「雑魚屋 思案橋店」）	
10月18日 （日）	8:00	受付開始	
	8:30～10:30	① 自由研究発表Ⅱ ② 若手チャレンジ研究会Ⅱ ③ 中学生・特別支援学校中学部生、高校生・特別支援学校高等部生招待企画「Project for Next SNE Researcher」	ラウンドテーブル各種（学会員からの企画提案で組織）
	11:15～12:30	学会総会・学会奨励賞表彰式	
	12:40～14:40	【準備委員会企画シンポジウム】 「教師不足時代における魅力ある特別支援教育教師養成の展望」 司会・進行：田部絢子（日本大学） 石川衣紀（長崎大学） 話題提供①：佐久間亜紀（慶応義塾大学）：教員不足時代の教員養成改革を問い直す—「大学における教師養成」はどこへ向かうのか—（仮題） 話題提供②：田中謙（日本大学）：日本の特別支援教育教師養成のあり方を考える—「特別支援教育作業部会」提案の問題と課題—（仮題） 話題提供③：戸ヶ崎泰子（宮崎大学）：地域の特別支援教育の教師養成に貢献する国立大学教育学部のあり方を考える（仮題） 指定討論：高橋智（東海学院大学） 高橋浩平（前東京都杉並区立桃井第一小学校長）	
	14:50～15:30	クロージング・セッション：準備委員長閉会挨拶、優秀発表賞発表・授賞式、次期開催校挨拶、学会代表理事挨拶	

■帰りの長崎空港までのご案内（リムジンバス、大人片道1400円）

16:16「長大東門前」→17:00 長崎空港着

6. 参加費と参加申込み方法

正会員	5000円（発表要旨集代金含む）
臨時会員（一般）	6000円（発表要旨集代金含む）
大学院学生	3000円（発表要旨集代金含む）

学部・専攻科学生	1500 円(発表要旨集代金含む)
高校生以下	無料(発表要旨集代金含まず)
発表要旨集代金	1000 円(1 冊)
懇親会	4500 円★先着 80 名まで

下記 Peatix サイトよりお申し込み下さい。

<https://sne32.peatix.com/view>

★参加申し込み締め切りは 9 月 30 日(水)です。※必ず事前にお申込みください。

7. 発表申し込み方法

①自由研究発表、②若手チャレンジ研究会、③ラウンドテーブルの3つの発表を募集します。

申込み方法の詳細は後日ご案内いたします。

①自由研究発表の発表申し込み方法

◆特別ニーズ教育の原理・歴史、教育制度・政策・運動、教育内容・方法・実践、国際比較等に関する個人研究・共同研究の発表を募集します。

◆発表資格は個人研究・共同研究ともに筆頭・連名発表者全員が本学会会員であることです。

◆発表される会員の方は今年度(2026 年度)の会費が納入済みであることが必要です。

◆非会員の方は筆頭発表者にはなれませんが、第 32 回研究大会参加の臨時会員(一般)として連名発表者になれます。

◆発表を希望する方は、Peatix サイトより第 32 回研究大会の参加申し込みの手続きをした上で発表申し込みサイトよりお申し込みください。併せて研究倫理に関しても回答をお願いいたします。発表希望が多数の場合は、会場の都合上、先着順とさせていただきます。ご了承ください。

◆発表者には「A4サイズ2ページの発表抄録」(8 月末締め切り予定)の提出を求めます。提出方法等の詳細は、発表申し込みをされた方に別途お知らせいたします。

◆発表時間は 15 分、その後の質疑応答 10 分です。

◆発表抄録の提出、発表、質疑応答の完了をもって、発表の成立といたします。

②若手チャレンジ研究会の発表申し込み方法

◆特別ニーズ教育における若手育成・社会貢献の観点から、日本特別ニーズ教育学会研究委員会では若手チャレンジ研究会を開催しています。内容のみならず研究方法についても適切な助言が受けられるよう、発表者の研究内容及び方法に合わせて研究実績の豊富なコメンテーターの選定をおこなった上で実施しています。

◆大学学部・特別専攻科・教職大学院・大学院修士課程の学生を対象に、卒業論文・修了論文・課題研究・修士論文の研究デザインに関する発表を募集します。ある程度の研究実績を重ね、博士論文の完成を目指す博士課程学生の方は、一般発表への申し込みをお願いします。

◆1 発表 25 分(発表 15 分、コメンテーターによるコメント及びフロアーからのコメント 10 分)、発表枠：4 枠(予定)

◆発表資格は本学会会員であることですが、大学学部・特別専攻科の学生に限り、非会員の方でも応募できます。

◆個人研究としての発表となりますので、指導教員が連名となる必要はございません。

- ◆発表を希望する方は、Peatix サイトより第 32 回研究大会の参加申し込みの手続きをした上で、後日ご案内する発表申し込みサイトよりお申込みください。併せて研究倫理に関しても回答をお願いいたします。発表希望が多数の場合は、会場の都合上、先着順とさせていただきます。ご了承ください。
- ◆発表者には「A4サイズ2ページの発表抄録」（8 月末締め切り予定）の提出を求めます。提出方法等の詳細は、発表申し込みをされた方に別途お知らせいたします。
- ◆発表抄録の提出、発表、質疑応答の完了をもって、発表の成立といたします。

③ラウンドテーブル企画の申し込み方法

- ◆ラウンドテーブル企画の申し込み資格は、本学会会員であることです。
- ◆ラウンドテーブル企画の申し込みや発表される会員の方は、今年度（2026 年度）の会費が納入済みであることが必要です。
- ◆非会員の方は、第 32 回研究大会参加の臨時会員（一般）として登録し、参加費を支払った後に発表者になれます。
- ◆ラウンドテーブル企画の申し込みを希望する方は、Peatix サイトより第 32 回研究大会の参加申し込みの手続きをした上で、後日ご案内する発表申し込みサイトよりお申込みください。併せて研究倫理に関しても回答をお願いいたします。希望が多数の場合は、会場の都合上、先着順とさせていただきます。ご了承ください。
- ◆ラウンドテーブル企画の申し込み者には「A4サイズ2ページの発表抄録」（8 月末締め切り予定）の提出を求めます。提出方法等の詳細は、申し込みをされた方に別途お知らせいたします。

8. 研究大会優秀発表賞

- ◆第 27 回研究大会から理事会・研究委員会により「研究大会優秀発表賞」制度が創設されました。優秀発表賞は本学会の「特別ニーズ教育に関する理論的・実践的研究を通して、学習と発達への権利に関する教育科学の確立を期する」という目的に資するため、研究大会の自由研究発表（若手チャレンジ研究会発表を含む）における優秀な研究発表の表彰を通して、特別ニーズ教育研究の奨励と次世代育成をめざすものです。
- ◆優秀発表賞の対象は、研究大会の自由研究発表（若手チャレンジ研究会発表を含む）の筆頭発表者であり、かつ大学等の学部・専攻科・大学院等の学生、および研究歴の短い教育・保育・療育・福祉等の実践者としてします。
- ◆優秀発表賞の審査は、自由研究発表（若手チャレンジ研究会発表を含む）の分科会座長が発表要旨集の掲載要旨、当日の発表内容・応答等を総合的に判断して該当者の有無を理事会に報告し、研究大会中に開催される理事会の審議により決定します
- ◆優秀発表賞は、研究大会の閉会セッションにおいて理事会より発表・表彰し、授賞者に賞状を授与するとともに、本学会ウェブサイト・会報等にて公表をいたします。
- ◆優秀発表賞の詳細は、学会ウェブサイトをご確認ください。

9. 研究大会の内容

10 月 16 日（金）

【前日プログラム】

長崎市立城山小学校を会場に、世界最初の被爆児教育「城山小学校原爆学級」に関するミニ講義と同学級卒業生のかたの語りを企画中です。

※内容は今後変更される可能性があります。

10月17日(土)9:15-11:45

【準備委員会企画】長崎地域特別支援教育分科会

地域に根ざした学会大会をめざす企画として立ち上げました。主に長崎県内の関係者によるミニシンポジウムを複数同時開催し、地域の方々の参加を広く呼びかけていきますが、学会員のかたもぜひお越しいただきたいです。

開催予定テーマ・コーディネーター

- ①「不登校への支援課題」：コーディネーター 内野成美（長崎大学大学院教育学研究科）
- ②「特別支援学校のキャリア教育」：コーディネーター 勘田陽子（長崎県立鶴南特別支援学校）
- ③「大学等での障害学生支援」：コーディネーター ピーター・バーニック（長崎大学障がい学生支援室）、吉田ゆり（九州大学基幹教育院）
- ④「読み書き障害の支援の実践」：コーディネーター 荻布優子（長崎大学教育学部）
- ⑤「特別支援学校での平和教育実践」：コーディネーター 菅達也（鎮西学院大学総合社会学部）
- ⑥「九州における教員不足問題と特別支援教育教員養成の課題」：コーディネーター 戸ヶ崎泰子（宮崎大学教育学部）

10月17日(土)12:00-12:40

【準備委員会特別企画】被爆者家族の証言

語り手：中村尚子（東京被爆二世・三世の会、長崎原爆「家族・交流証言者」）
長崎出身の特別ニーズ教育研究者であり、2026年より長崎平和推進協会公認の「家族証言者」となられた中村尚子氏に「被爆者家族の証言」を実際に語っていただきます。

中村 尚子（なかむら たかこ）

被爆者：馬渡 郁雄（叔父）

講話内容 >>

^

爆心地近くで家族4人を亡くした叔父、馬渡郁雄（被爆当時20歳）の8月9日から14日までの被爆体験を語る。

郁雄は、爆心地から3.3kmの勤務先で被爆。翌10日早朝、被爆直後の町を歩いて山里町にあった自宅（爆心地から230m）へと急いだ。自宅周辺は人も建物も完全に焼け、平らになっていた。郁雄の父、馬渡久吉とは久吉の勤務先の山里国民学校（爆心地から700m）で再会し、郁雄は救援に奔走した。13日、久吉は息を引き取る。母親、妹、弟の確かな行方は不明。

（平和推進協会ウェブサイトより）

10月17日(土)12:45-13:45

【基調講演】平田勝政（長崎大学名誉教授・鎮西学院大学名誉教授）：長崎・あの日を忘れない—原爆を体験した目や耳の不自由な人たちの証言—

課題研究シンポジウムと連動する形で、視覚障害や聴覚障害を有する被爆者の証言の聞き取りをふまえながら、「戦争・核・平和」と特別ニーズに関わる基調講演としてお話しいたします。

10月17日(土) 14:00-16:30

【課題研究シンポジウム】『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育

◆企画趣旨

ロシアによるウクライナ侵攻、ガザやイランにおける人道危機に代表される現代の戦争・武力紛争は、子どもを直接的・間接的に巻き込み、生命の危機のみならず、住居・食料・医療といった基礎的生活条件の喪失、学校教育の中断、心理的外傷や発達機会の剥奪をもたらしている。障害・疾病等の特別なニーズを有する子どもにとって、戦争・紛争下の環境は一層深刻な影響を及ぼす。

しかし、『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育に関わる検討は全く未着手の課題である。かつて清水寛(1990)が「構造的暴力」に抗する平和教育における障害児問題への着目を提起したにもかかわらず、その後の平和教育研究においてこの視点は十分に継承されてこなかった。まずは戦争・核・平和問題と障害・疾病等の特別なニーズを有する子どもの「いのち・生活・学習・発達」の困難・リスクに関する丁寧なレビューを実施して、『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育研究のあり方を検討していく必要がある。その際、以下の視点が重要となる。

第一に、平和教育の研究や教育実践において障害・疾病等の特別なニーズを有する子どもの「いのち・生活・学習・発達」の困難・リスクがどのように位置づけられてきたのか、あるいは位置づけられてこなかったのかを検討する。

第二に、戦時体制における障害児・者の動員と排除の歴史的検証を深化させることである。「戦力ならざる者」として周辺化された障害者が戦時体制下でいかなる処遇を受けたのか、また戦後においていかに「忘却」されてきたのかを明らかにする。

第三に、核被害と子どもの発達困難・支援ニーズの解明である。原爆被災児童から核実験被害、原発事故に至る「核被害の連続性」を視野に入れ、子どもの「いのち・生活・学習・発達」への長期的影響を検討する。

第四に、現代の戦争・武力紛争下における子どもの実態把握と国際基準との照合である。国連安全保障理事会が機能不全に陥り、国際的な紛争解決メカニズムが十分に作動しない状況が続いている。平和は自明のものではなく、不断の努力によって構築されるべきものである。ウクライナやガザ、イランにおける子ども、とりわけ障害・疾病等の特別なニーズを有する子どもの状況を把握し、「子ども被災・救済の特別なニーズ教育」の国際的な展開可能性を検討する。

これらの課題に取り組むことで、災害・パンデミック・紛争・戦争における障害・疾病等の特別なニーズを有する子どもの「いのち・生活・学習・発達」の困難・リスクを連続的に捉える視座を構築し、「子ども被災・救済の特別なニーズ教育」の射程を拡張していくことが求められる。

高橋智(研究委員長・東海学院大学)

企画	研究委員会・高橋智(研究委員長・東海学院大学)
進行	高橋智(東海学院大学)、武井哲郎(立命館大学)
報告①	高橋智(東海学院大学) 子どもの「戦争・核・平和」問題と特別ニーズ教育研究の視座—長田新(1951)『原爆の子—広島の子のうたったえ—』を手掛かりに—
報告②	岸博実(日本盲教育史研究会) 視覚障害と戦争—盲教育史の視点から—
報告③	石川衣紀(長崎大学) 長崎にて原爆被災した子どもの「いのち・生活・学習・発達」問題のリアリズム—長崎市立城山小学校「原爆学級」(1952~1958)の被災児教育を中心に—

報告④ 菅達也（鎮西学院大学）障害・特別ニーズを有する子どもの平和教育実践―長崎県の特別支援学校を事例に―
指定討論 平田勝政（長崎大学名誉教授・鎮西学院大学名誉教授）
木永勝也（長崎総合科学大学）打診中

10月17日（土）・18日（日）

中学生・特別支援学校中学部生、高校生・特別支援学校高等部生招待企画

「Project for Next SNE Researcher」

→現在内容を企画中。

10月18日（日）12:40-14:40

【準備委員会企画シンポジウム】「教師不足時代における魅力ある特別支援教育教師養成の展望」

【企画趣旨】

現在、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会では「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策に関する論点整理」を進めており、教師養成と教育課程（学習指導要領）の改革の一体化や教員免許制度のあり方についての検討等が行われている。しかし、現在の議論においては懸念される課題が依然として多く残されている。例えば、教員養成部会（「教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループ」）の提案では教職関係の履修単位数は事実上大幅に削減され、新たに「強み専門性に係る内容の学修」が組み込まれているが、なぜ単位数や科目構造を変えても質が下がらないのか、あるいはどのように質を担保するのかということについて、十分な根拠に基づいて説明されていない。

また、今回の制度改革のキーワードともなっている「強み専門性」（何とも奇怪な用語である）については、免許にも付記することが可能ともされているが、一方で実際の採用・配置・校務分掌・研修・昇進にどのように反映されるのかは十分に示されておらず、採用試験でどう評価するのか、学校配置でどう活用するのか等については議論が中途の段階にあるといえる。

さらに、「教職課程認定基準の改正」では、「教職に関する科目」の3割を上限に、単位互換科目を大学自ら開設の科目とみなすことが可能」であることが明記されているが、単位互換に伴う教職課程の大学間連携が、ひいては教育学部・教育学科等を有する大学の統廃合の議論にもなりかねないような危険性を内包している。

このような動きと連動して「特別支援学校の教職課程の再構造化」の議論を展開してきたのが、教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループのもとに設置された「特別支援教育作業部会」である。特別支援教育作業部会の提案では特別支援学校教諭免許状の修得単位数の大幅削減が提起され、それに対して複数領域取得や実践的専門性の担保への懸念が指摘されている。また科目区分の大幅な見直しについても提起されているが、各大学の既存科目がどのように位置づけるのか、課程認定への影響については議論が深められないままとなっており、今後、特別支援学校教員養成課程を有する各大学において、どのような対応が求められていくのかについて議論が不可欠である。

さらに、「教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループ」で提案されている「強み専門性」については、特別支援教育科目を履修して充てる方向性も打ち出されているが、特別支援教育の一部科目だけを履修して「強み専門性」として示せるようになると、特別支援学校教員免許取得の意義が必然的に低下・弱体化するという当然な懸念も指摘されている。

さて本シンポジウムでは、現在進められている国の教員養成改革の議論を踏まえながら、特別支援教育の教師養成のあり方について検討するものである。とくに、教師不足の厳しい時代であっても、教師養成を通して地域の社会的基盤をしっかりと支えていく教育系大学・学部・学科の新たな意義・役割をどのように打ち出していくのか、そのなかで魅力ある特別支援教育の教師養成をどのように構想していくのかについて議論を行っていく。

特別ニーズ教育の視座から、学会員の衆知を集めて、今後の教師養成のあり方や可能性について展望し、問題提起をしていく機会としたい。

【登壇者】

司会・進行：田部絢子（日本大学）・石川衣紀（長崎大学）

話題提供①：佐久間亜紀（慶応義塾大学）：教員不足時代の教員養成改革を問い直す―「大学における教師養成」はどこへ向かうのか―（仮題）

話題提供②：田中謙（日本大学）：日本の特別支援教育教師養成のあり方を考える―「特別支援教育作業部会」提案の問題と課題―（仮題）

話題提供③：戸ヶ崎泰子（宮崎大学）：地域の特別支援教育の教師養成に貢献する国立大学教育学部のあり方を考える（仮題）

指定討論：高橋智（東海学院大学）

高橋浩平（前東京都杉並区立桃井第一小学校長）

10. 懇親会

10月17日（土）18:00-20:00

「雑魚屋 思案橋店」 <https://akr8827328319.owst.jp/>

おひとり 4500 円★先着 80 名まで

